

全国の教会・伝道所の女性会の皆さま
教会に集う皆さま

2025 年 9 月 11 日

日本バプテスト女性連合
6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員会

「祈り便」第 68 信（8 月～11 月）のご案内

全国の皆さま、今年は敗戦から 80 年の夏を覚え、各教会、地域で平和の祈りをささげられたことと存じます。「祈り便」第 68 信をお送りします。引き続き沖縄を覚え、祈りを合わせてくださいますようお願いいたします。

昨年 12 月、那覇市内にある「貝と言葉のミュージアム」を訪れる機会がありました。館長の名和純さんが収集した何百もの貝の展示の鑑賞後、ビデオを見ながら説明をお聞きすることができました。多くの貝のほとんどが沖縄で集めた貝であり、その種類の多さに驚くと共に、それらの貝が育まれた沖縄の海の豊かさに圧倒されました。その日はミュージアム訪問の前に大浦湾にある瀬嵩浜にも立ち寄りしました。美しく静かな浜にはたくさんの貝殻が打ち上げられていました。しかし現在、その沖には杭が打ち込まれはじめています。毎年新種の貝が多く発見されているその浜辺も、打ち上げられる貝が激減するだろうと名和さんが話されていました。

沖縄戦終結から 80 年経ちますが、あの悲惨な戦争が終わっても沖縄は平和な日常を取り戻すことがいまだできずにいます。それどころか、再び戦争へ向けての準備が着々と進められている事に愕然とする思いです。戦争を体験された方たちは「二度と戦争を起こしてはならない」と声を上げていますが、その多くの声たちは骨になっても叫んでいます。年を経るごとに語り部が減っていく中で、想像を絶するほどの痛みと犠牲を伴った戦争があったことを知らない人たちにどう伝えていくのか、わたしたち一人ひとりが問われています。

名和さんは貝の研究を通して本も執筆されています。第 50 回新沖縄文学賞受賞作「ユナ」には貝のことや埋め立てのこと、昔あった浜辺のことなどが書かれています。ミュージアムでお話を伺っている時、「もう大浦湾には貝がいなくなってしまうのですね」と言ったところ、名和さんは「以前、沖縄の他の海岸が護岸工事で埋め立てられ、浜が消失してしまったことがあるが、数年後に台風で護岸の一部が壊れ、その後には再び砂浜ができた。自然の力は想像を超える。希望はある」と笑顔で答えられました。

政府が莫大な予算を辺野古の新基地のための埋め立てや軍備に使っていることに反対の声を上げて、私たちの力の無さを思い知らされ、時にくじけてしまいそうになるかもしれません。しかし創造主である神さまを信じるわたしたちの祈りには力があり、人間のする事よりもはるかに上回ることもまた、わたしたちは知っています。わたしたちが負わせている沖縄への痛みを共に担い続けると共に、世界で起こっている争いが一日も早く終結し、主の平和が世界中に満ち溢れますよう祈っていきましょう。たとえ小さなことでも平和のために出来ることを探し続け、行動したいと願います。

（『世の光』2025 年 8 月号 27～28 頁より）